

令和5年第3回定例会一般質問通告事項

6 月 21 日	前田孝人議員（潮風おのみち）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 平谷市長の政治姿勢</p> <p>(1) 303 票差のこの度の選挙結果をどのように受け止めているのか。また真っ二つに割れた市民がしこりを残さず「ノーサイド」になれるのか。その取り組みはどうか</p> <p>(2) 今後の市政運営。尾道をどのようなまちにしていこうと考えているのか</p> <p>(3) 平谷市長の「多選、箱物行政」に「NO!」と意思表示をした人が投票者の半分以上ある。今後この人たちの意見や批判を聞き入れた市政運営ができるのか</p> <p>(4) 選挙戦において多くの選挙公約を打ち出している。ただあまりにも総花的であるが、これらは実行、実現できるのか</p> <p>(5) この4年間で平谷市政の総仕上げになるのか。あるいは次の6期目へ向けてのさらなるステップアップの4年間になるのか。この点はどうか</p> <p>2 厳しい経営が続いている市民病院とみつぎ病院の再編統合</p> <p>(1) 平谷市長自ら三顧の礼を尽くして招聘した青山病院事業管理者を、運営、改革の手法が違ふとしてわずか1年余りで罷免した。平谷市長のこの判断の誤りこそが、その後現在にいたる両病院の経営環境の悪化につながったと考える。つまり経営が負のスパイラルに陥ってしまった大きな原因だと思うがどうか</p> <p>(2) 人口構成と医療需要の変化に対応するため、経営状況の厳しい市民病院とみつぎ病院を再編統合し、地方独立行政法人（非公務員型）へ移行し、（仮）尾道市病院機構として独立採算で運営すべきだがどうか。その中で老朽化した市民病院は建て替え新築するとともに、急性期、高度、救急医療を行う尾三圏域の基幹病院として三次救急また災害拠点病院としての役割を担う事とする。またみつぎ病院は回復期から維持期、慢性期の医療を提供し、リハビリテーションなどをより強化し在宅復帰への支援を行っていく等、在宅医療、医療後の介護、施設サービスに特化すべきであるがどうか</p>	

6 月	<p>(3) 人口 13 万人を切る尾道市が将来にわたってこの二つの総合病院を経営、運営していく体力があるのか。2040 年には 10 万人、2060 年には 7 万 5,000 人となる尾道市の人口予測の中では財政的にもとうてい無理な話であり、早急に方向性を出すべきであると思うがどうか。また 30～50 年先を見越せば J A 尾道総合病院との再編の方向性も模索すべきであると思うがどうか</p> <p>(4) 平谷市長は市民病院の建設促進を公約に掲げている。気になるのは建て替え論議が先行しているという事である。「病院の新築は病院の最大の危機である」と言う専門家もいる。つまり病院新築と身を切るような経営改革を必ず一体的に行わなければならないという事である。本来は尾道地域医療構想を策定し、その中での市民病院の新築の論議であるべきだ。新築ということになれば 150～200 億円は必要と思われる。少なくとも三分の一つまり 50 億円以上の自己資金をもっていなければならない。また危惧している事だが新築することで本当に医師が確保できるのか課題も多い。これらについての考えはどうか</p>
21 日	<p>3 副市長人事をめぐるドタバタ劇、一人芝居</p> <p>(1) 平谷市長は市役所の組織こそスリム化が求められると発言し、一年と少し前に副市長を今までの二人体制から一人体制にした。なぜ唐突に再び二人体制に方向転換したのか</p> <p>(2) もう一人副市長を置いてどのような役割を持たせようとしていたのか。 役所内の合議はできていたのか</p> <p>(3) 平谷市長は目星をつけていた人が難しくなったと前言を撤回し提案は断念した。副市長人事はこんなにも軽いものなのか</p> <p>(4) 今回のドタバタ劇というか一人芝居。5 期目のスタートを切ったばかりの平谷市政の前途多難な幕開けと考えるがどうか</p>